

## 休日の過ごし方 について

統計課

企画分析グループ

小野瀬 篤 郎



「働いて働いて、暗いうちから働いて、やっとここまで来たけれど働くだけが人生か?」。どこかで聞いたセリフである。

就職して1年が経とうとしている現在、私が毎月待ち遠しい日というのは、給料日と休日である。物はお金で買えるが、時間はお金で買えないので休日は特に待ち遠しい。学生時代、特に4年次などは授業が週に2時間しかなく、暇をもてあましていたものであるが現在はその逆で休日が貴重なものとなっている。

日本人は働いてばかりいてどうも休日の過ごし方が下手であると言われて久しいが、仕事人間と呼ばれるような人たちは退職してからが不幸であろう。なぜならば余暇の過ごし方を知らないため暇をもて余すしかないからである。時間を自分のために有効に使う方法を知らないからである。しかし、最近ではライフスタイルの変化に伴い、日本人の生活意識も変化し、休日の過ごし方に変化がみられるようになってきた。

さて、私の場合、休日をどのように過ごしてきたのか考えてみた。休日の前の日というのはお酒を飲む機会が多い。そして次の日の午前中は寝ていることが多い。知人が多く出来る利点はあるが休日を無駄に過ごしているように思う。その上、私は家が遠いため友人の家に泊めてもらうことが多く、迷惑をかけてばかりいる。

季節によって様々なスポーツなどをして休日を過ごす。まず春から秋にかけてはテニスをする。

晴れた日に青空のもと、屋外でテニスをするのは格別である。しかし、テニスコートは休日には予約でいっぱいとなり利用するのが難しいこともある。夏は海辺を車で走るのもいい。しかし、あまり走りすぎると車がサビてしまうという難点がある。また私は、昨年の暮れにゴルフを始めてしまった。なぜか私の友人にはゴルフの上手な人が多く、対応に苦慮しているが、とりあえず密かに練習場に通い上達するよう努力しているがなかなかうまくいかないのが現状である。

そして、今年に入ってから私はスキーも始めてしまった。寒いのが苦手な私は今までスキーの誘いを拒み続けてきたがとうとう始めてしまった。私は体が強い方ではないので、怪我をしないよう準備運動を入念に行なって挑戦しようと考えているが先のことはわからない。

この他にも私はいろいろな事に手を広げすぎてどうも最近では金欠病にかかってしまったようである。将来の生活を非常に憂慮している。どうも休日の過ごし方は、ポリシーが必要であり、計画性を持たないとストレスの原因になるようである。

私のある友人は「いろいろな事に興味を持って幅の広い人間になりたい」と言っていた。私もいろいろな事に興味を持って時間とお金の許す限り挑戦し、豊かな生活を送りたいと考えている。休日もそのような目的のために過ごすことができたなら幸せであると考えている。



# 経 済 動 向

## 国内の動き

### ● 昨年の東京円、3年ぶり大幅値動き

90年の東京外国為替市場の円相場は、高値が1ドル＝124円5銭、安値が160円35銭。変動幅は36円30銭だった。ルーブル合意、世界同時株安(ブラック・マンデー)後に円安・ドル安が進んだ87年に次ぐ、3年ぶりの大幅な動きとなった。90年はドイツ統一など戦後政治体制の枠組みが大

きく変わった年とあって外為市場は激動の1年だった。年間の平均レートは、4月にかけて日本の政局不安や海外への資本流出を背景に円安が加速したのが響き、1ドル＝144円88銭と89年に比べて6円74銭の円安水準となった。

(1月1日付 日経)

### ● 法人所得、金融業の比率低下

高金利や株価低迷で、法人税収でも金融業のウエートが低下、製造業が「復権」している。大蔵省が明らかにした平成元年度の業種別法人所得によると、金融保険業は全体の17.1%にとどまった。2年度は銀行、証券が軒並み減益確実とみられるため、10%そこそこまで低下する可能性も

ある。これに対し製造業は元年度で34.6%を占めた。金融保険業の法人所得は昭和62年度に全体の20%に達するなど、ここ数年、税の自然増収を生む原動力になったが、バブル経済の崩壊で勢いを失った。金融業の不振は今後、国税収入全体にも影響しそうだ。(1月16日付 日経)

### ● 11月の景気動向一致指数、2ヶ月連続50%割れ

経済企画庁が発表した11月の景気動向指数(DI)によると現在の景況を示す一致指数は40.0%と景気判断の分かれ目となる50%を2ヶ月連続して割り込んだ。これは景気拡大が始った86年11月以後では初めて。数ヵ月先の景況を示す先行指数も40.0%と10ヵ月ぶりの3ヵ月連続50%未満と

なり、景気減速感が鮮明になってきた。企画庁は「消費や設備投資は引き続き堅調。依然として景気は拡大局面にある」としているが、12月の指数も引き続き低迷すれば、景気は後退期を迎えつつあるとの見方も出てきそうだ。

(1月30日付 日経)

## 県内の動き

### ● 最高路線価上昇率、県平均20%超す

水戸税務署は、土地にかかる相続税や贈与税の平成3年分の課税基準となる県内8税務署ごとの最高路線価を発表した。トップは今年も野村証券水戸支店前水戸駅前通り(水戸市宮町1丁目)で、1平方メートル当たり168万円。前年に比べた上昇率は、同路線の47.4%を最高に、竜ヶ崎管内

を除く7税務署管内で昭和54年の公表開始以来、最高の伸びを記録した。県平均も始めて20%を突破し、県内の地価上昇傾向が一段と加速していることを示す形となった。

(1月23日付 茨城)

### ● 取手に映像研究施設建設

茨城県、通産省などで構成する「ブレーションハーモニー構想調査委員会」が策定した「映像未来都市構想」に基づき日立製作所、通産省、茨城県、東京芸術大などが取手市周辺に世界でも最大級の映像技術に関する共同研究施設を建設する。同市に今秋、進出する東京芸術大を核に、つくば市の国立研究機関、民間企業など300を超える研究組織を結集する。約1500億円を投じ、特殊撮影やCG(コンピュ

ータグラフィックス)、高品位テレビなど映像のハード技術のほか映画やビデオなど映像ソフトの新しいジャンルを切り開く。映像を大学や民間企業が共同研究する施設は、米マサチューセッツ工科大学内の「メディア・ラボ」が知られるが、「映像未来都市構想」は規模、投資額ともこれを上回る。(1月29日付 日経)